

元培科技大学(台湾)国際交流サマースクール 報告書

2014 Yuanpei University Summer School for Chinese Learning and Healthcare
Industry Site Visit. Special program for Kyoto College of Medical Science

医療科学部 放射線技術学科 3回生 今井 彩華

2014 Yuanpei University summer schoolに参加させて頂き大変貴重な経験をさせて頂きました。



私は国際交流をすることは初めてだったため、台湾に行く前は台湾の学生ボランティアの人達と仲良く出来るだろうか、コミュニケーションは取れるだろうかと不安でした。しかし実際に台湾を訪れ、学生の人達と会うと、とてもフレンドリーに接してくれたので不安というものは消え、楽しめました。まず台湾の学生さんと一緒に中国語の勉強をしました。私は一回生の時に中国語の授業を履修していたため簡単なあいさつや自分の姓名を中国語で話すことは出来るので

すが、それ以上のことは台湾に行く前は話せなかったです。

しかし台湾での中国語の授業で覚えた文法や単語をその他のカリキュラムで使うことができたので、少しは話せるようになったかなと思いました。台湾の学生さんは日本語を専攻しているため日本語が本当に上手でした。また台湾の学生さんは分からない日本語があったら「これはなんていうの?」とすごく積極的に聞いていたためすごく感心しました。やはり国際交流は自ら積極的に動いて自分が聞きたいこと、したいことなど伝えないと始まらないと感じました。その一つのツールとしてコミュニケーション(英語や中国語)ができると会話が盛り上がると思いました。私は全然英語が話せなかったことが今回の悔いです。英単語は簡単なものはでてくるが、文章にはならなかったためもっと勉強しないといけないと改めて思うことができたのでよかったです。でも通じなくてもあきらめずにジェスチャーや他の単語を使って伝えようとして相手に通じた時はすごくうれしかったです。



次に新竹国泰綜合病院を見学させていただきました。私は将来海外で働きたいという夢があるため他国の医療を見学できることはとても貴重な経験だと思いこのサマースク-



ルに参加した一つの理由であったため非常に楽しみにしていました。実際に新竹国泰綜合病院を見学し感じたことは日本の医療と変わらないなどおもいました。また実際に放射線科の先生に読影のポイントを教えて頂き勉強になりました。台湾の医療を知ることができたことはこれからの自分にとって大きな糧となりました。

私が最も印象に残ったのは、最後に行われた歓送会です。歓送会では台湾の学生さんが台湾文化の歌やダンスを披露したり、日本の学生が日本の料理や日本の流行のダンスなどを披露します。私たちはあるダンスをしようとして話し合っ、台湾に行く前にそのダンスを練習していましたが、日本の他大学の人達とダンスがかぶってしまったため急遽ダンスを変更しました。ハプニングでした。そしてその夜に緊急のミーティングを行いました。全員でどうするか話していると引率してくださった先生が「社会人になったらこういう状況（予定していたことがなくなる）がよくある。その残り少ない時間でやり遂げなければならない。その状況が今だからいい経験だ。そこで乗り越えるか越えないかは自分達次第だ。」というアドバイスをくださり、発表まで残り3日でしたが残り3日しかないではなく3日もあるとポジティブに考えてやろうと話し合い、違うダンスの練習を始めました。



この練習期間内でお互いに意見を言い合い、全員がパフォーマンスをよくしようという意識が前に練習していたダンスよりもあるなど感じました。そして本番！本番では日本の他大学の人達や台湾の人達がとても盛り上がってくれました。また終わった後も「すごかったよ」と言ってくれたのでとても嬉しかったです。ダンスを終えた後全員が達成感に満ちた笑顔でした。この経験を通して台湾に行く前と行った後では自

信がついて帰れたなと思いました。

